

九州環境管理協会の生い立ちとこれからの施策

一般財団法人九州環境管理協会元理事長
九州大学名誉教授 高島 良正

1. はじめに

今年も例年のように、ゆっくりした正月を迎え、新聞を読んでいると九環協から部厚い郵便物が送付されてきた。近年は九州環境管理協会(以下、九環協と言う。)へ行くことも全くなく、何事かと思って中を見ると最新の46号の「環境管理」(著書)であった。

さて私は平成5年3月九州大学理学部を定年退職した。定年退職間近となり、ほかにやる仕事もなかったので、九環協からの要請により、同協会の副理事長となった。ところが数年後、当時理事長の細川巖先生(福岡教育大学教授)が思いがけなく他界されてしまったので私が理事長を引き受けざるを得なくなった。

今回は、私の経験をもとに九環協の創成期を紹介し、応援の言葉を伝えたいと思う。

2. 草創期の九環協

九環協の前身は福岡教育大学の細川先生や九州大学の竹下先生等が中心となって作られた「九州水質分析研究会(以下、研究会と言う。)」であると聞いていたが、設立当時私は大学の業務が多忙で全く知らなかった。

しかし、毎年1回福岡教育大に非常勤講師として集中講義に行っていたので、細川先生の下で講師をされていた大島文雄氏(故人)に研究会に入会するよう勧められた。考えている間に研究会は法人化され、九環協が設立されたので直に理事として入会した。当時は、まだ九大在任中で、月に1回の会議出席で済む程度であった。

また、設立当時の九環協は運営資金が十分あるわけでもなく、協会設立の主要人物である竹下先生でさえ、



平成元年 熊本県職員来訪時、九環協旧事務棟(元九電病院看護師寮)前にて

2～3年もてれば上出来だろうと言われた程であった。

私は九大在職時代、分析化学と放射化学二つの講座にそれぞれ20年近く所属していたので、卒業生も広い分野で活躍していた。卒業生の中で、大学卒の就職状況が良くない時期に、一流の大会社を希望して就職できなかつた者、福岡近郊で就職したい学生に、新しく設立された九環協への就職を勧めた。そして学生に「今はあまり良い職場ではないが、自分が入って良くなるのだという気概をもって行きなさい」と申し述べた。

今では九環協に入社したいと言う者は九大や他の大学に多数いると聞いているが、草創期には先生自身が九環協の理事や評議員をされていても、卒業生を九環協に送りこもうという先生は殆どいなかった。

しかし学生達の中には、福岡市にそのまま居てやり甲斐のある仕事ができるのであれば、九環協に入社したいというのが次第に増えてきた。

3. 九環協の拠点づくり、事務系と技術系の基盤

九環協の前身とも言える「九州水質分析研究会」は細川先生や竹下先生が立ち上げられた少人数の分析機関であり、事務系とか技術系とかははっきり区別するようなものではなかった。

その後、九環協の存在が九州各県あるいは全国的に知られるようになり、分析依頼が急増し、それなりの人員や建物の増大が必要になった。

そのため、それまで福岡市内の高宮にあった東和大学の一角に間借りしていた所から、現在の東区松香台へ引っ越して来ることになった。元は九州電力株式会社の所有地で、土地は広いが建物は古く、旧九電病院の看護師寮の建物等であった。既存の建物を居抜きで利用しつつ、順次新しい建物に建て替えていった。

人事面でも協会の直接の指導者となる事務系の小林博之氏(故人、専務理事)、技術系の白石直典氏(故人、技術部長)という優秀な方々を迎え、九環協の基盤が確立された。

4. 九環協への出勤

私は九大在任中にも時折九環協へ遊びに行くことは

あったが、職員として出勤したのは定年後の4月であった。以前は、九大を定年になった者は近郊の私立大学等の教授となる人が多かったが、私が定年になった頃はそれぞれの大学がその大学卒業生を教授や助教授に採用するようになり、私も福岡大学客員教授の称号は頂いたが、実質的には非常勤講師であった。そこで九環協を自分の最後の働き場所と考え、平成7年から一般職員同様毎日出勤し、業務内容を直接見ながら改革すべきところは改め、協会の発展に寄与しようとするようになった。

実際やってみると仕事が社会と直接結びついているので面白く、自分自身の発案で決まった75歳定年まで務めることになった。

5. これからの施策

上記のように、九州・山口地区の大学教授らによって設立されたユニークな財団法人は、紆余曲折はあったものの、ほぼ順調に成長を続け早や46年になった。46年前といえば福岡市はまだ政令指定都市にもなっていない、新幹線も走っておらず、市内は路面電車が最も便利な交通機関であった。それから10年後、地下鉄1号線が開通し、更に10年後ベイサイドプレイスが開業し、その後の10年間に福岡ドーム、キャナルシティ、博多リブレイン等が開業し、現在人口約155万人の大福岡市に発展してきた。東京や大阪などの昔からの大都市は人口減少気味だと言われる中、福岡市の発展は注目に値する。私は熊本の出身で、九州大学入学のため昭和25年初めて福岡市に来たが、その頃熊本市と福岡市の人口はどちらも70万人位だったと記憶している。

肝心のこれからの施策については、最早や米寿を過ぎ、先のことより過去を振り返ることが多く、今の九環協が具体的に如何に進むべきかについて御助言することは不可能な状態である。

ただ送ってもらった「環境管理」の事業報告を見ると、「次代の環境をつくる人材育成事業」という報告があり、私が九環協在籍時代に考えていたことが今行われているのを知り嬉しく思った。環境問題は高校、大学になってから学問の一つとして教えることは勿論であるが、幼

稚園、小・中学校時からそれなりに易しく教えることが必要だと思う。

子供達も、全部理解できるわけではないが、きっと興味深く聞いてくれると確信する。そして知り得たことを実践するのは大人以上であろう。

九環協の設立当時は公害などの環境問題だけを考へての設立だったが、今後は全職員の英知を集め新しい業務への展開を目指してほしいと願っている。

6. おわりに

以上、九州環境管理協会の理事を務めた者として、思い出したことを雑文として書いたが、私が未だに心に残るのは九環協の将来で特に創立 50 周年記念のことである。それはおそらく今から 3 年後、私が 92 才になる時であろう。その時まで無事生きぬいて、現職員の方と喜びを共にすることができるかどうかということである。

因みに創立 25 周年記念の時は、福岡県、福岡市、九州大学、他県の同種の協会などから多くの人々に出席して頂き、講演会と盛大な祝賀会をしたものである。

最後に一般財団法人九州環境管理協会の益々の発展を祈って終わりとしたい。



創立 25 周年記念式典
九州大学名誉教授・元当協会常任理事塚原 博先生
(右・故人)と共に